

米国環境保護庁
ワシントンD.C. 20460

大気放射局

2008年2月19日

ENERGY STAR外部電源装置（EPS）パートナーあるいはその他関係者各位：

米国環境保護庁（EPA）は、ENERGY STAR EPS基準バージョン2.0の最終草案に関する意見を歓迎する。本書は、EPSのモデルがENERGY STARとなるために満たす必要がある新しいエネルギー効率要件案を示している。本書が確定されると、現行のバージョン1.1基準に取って代わる予定であることが意図されている。

EPAが第1草案に関する関係者意見を検討している間、EPSに対する新しい連邦強制基準を含めた2007年エネルギー自給・安全保障法（the Energy Independence and Security Act of 2007）が法律として成立し、2008年7月1日に発効する¹。このため、一部の関係者は、ENERGY STARのバージョン2.0基準は不要であると意見したが、ENERGY STAR要件をこれらの新基準と協調させることを提案する意見もあった。現在入手可能なEPSの性能に基づき、EPAは、費用対効果の優れたより効率のよい代替案を提供しながらも、保留中の基準よりも厳しいENERGY STAR水準を規定できるほど、製品間の差別化が依然十分に存在すると結論づけた。以上のことから、EPAは、稼働モードおよび無負荷モードの要件案を考慮に入れて、EPAのデータにおける25%に当たる機器がENERGY STARに適合すると考えられる新しい効率基準値を最終基準草案において提案している。

また一部の関係者は、交流-交流モデルに対する最大許容無負荷時消費電力を引き上げる要求した。この変更を行うと、ENERGY STARの任意基準が新しい米国強制基準よりも容易になってしまうため、EPAはこの変更を実施しなかった。最終草案において提案されている交流-交流モデルに対するENERGY STARの無負荷時基準は、2007年エネルギー自給・安全保障法（the Energy Independence and Security Act of 2007）における0.5W基準と一致している。

EPAは、一部の関係者から、電話製品のような適用されるENERGY STAR基準がEPS基準を引用している製品に対して長期の移行期間を認めるために、バージョン2.0基準の発効日を延期するように提案された。2008年7月1日に発効するEPSに対する連邦強制基準が、EPSに対する現行のENERGY STAR基準よりも厳しいことから、ENERGY STARが市場において適切であり続けるためには、ENERGY STARの新基準は強制基準の発効後、可能な限り早急に発効することが重要である。したがって、EPAは発効日を2008年11月1日とする予定であり、これは約9か月の移行期間を認めるものである。

重要な意見がバージョン2.0基準の第1草案の多くの要素に対して提出され、これを受けてEPAは、バージョン2.0のエネルギー消費効率基準案に次の主な修正を行った。

¹ 詳細については、米国エネルギー省の Web サイト

(http://www.eere.energy.gov/buildings/appliance_standards/schedule_setting.html) にて、2008年2月の「Report to Congress on Appliance Energy Efficiency Rulemakings - Implementation Report: Energy Conservation Standards Activities」をクリックして確認できる。

- 低電圧高電流用の製品の効率を制限する設計上の制約を考慮して、低電圧EPSのモデルに対する定義および個別の稼働モード要件を追加した。
- さまざまな電力範囲において一貫した適合率を確保できるように、出力電力49W以下のEPSモデルのために、稼働モード計算式を調整した。
- 稼働モード計算式に対するEPSの上限境界値を36Wから49Wに修正した。このように稼働モード効率は、0から1W以下、1W超から49W以下、および49W超を対象とする出力電力と関係した3つの方程式に基づいている。
- 入力電源が100W以上の電源装置に適用できるように、力率要件を変更した。（また、検討および意見を求めるために、力率に関して第2の選択肢を含めた。）
- 発効日がEPS各機器の製造日に基づくことを明確にするために、新たに文言を追加した。
- その他の最終使用製品のENERGY STAR基準におけるEPS要件に関して、EPAの意図を正式かつ簡潔に示すために、新たに第6章：ENERGY STAR製品基準の発効日を追加した。

最後に、EPAは、複数の電圧および周波数で動作可能なEPSに対して、115ボルトおよび230ボルトにおける試験と適合の要件を維持した。関係者の要求により、最終草案における基準値を策定する際、EPAは、この方針と矛盾しない方法でデータを分析するようにした。すなわち、115Vおよび230Vの両方のデータがあるモデルは、両方の電圧においてすべての基準を満たさなければならない。このEPS基準バージョン2.0の最終草案において提案されているエネルギー消費効率要件を決めるためにEPAが使用したデータ（モデル特定情報を隠したもの）を、本書に附属書類として添付している。また、EPSデータおよび提案された基準値を表す概略図表も、関係者の検討用として同封している。

関係者には、この最終草案に対する関する意見を2008年3月11日までに提出することが求められる。意見は、ICF InternationalのRobin Clark (rclark@icfi.com)宛てにメールにて提出すること。提出者から意見を非公開とする明確な要求がない限り、受け付けたすべての意見は、ENERGY STAR基準策定Webサイトに掲載される。EPAは、新基準の発効までに業界に対して約9ヶ月の移行期間が与えられるように、バージョン2.0基準を2008年3月中に確定させる予定である。

EPA、業界、およびその他関係者間における意見や情報の交換は、ENERGY STARの成功にとって重要である。EPAによるENERGY STAR EPS基準改定の進捗状況や意見は、基準策定ウェブサイト (www.energystar.gov/productdevelopment) にて「Revisions to Existing Specifications」をクリックして確認できる。

意見および提案の提供に感謝する。EPAのAndrew Fanaraには、(206)553-6377あるいは Fanara.Andrew@epa.gov で連絡をとることができる。

Best regards,
Andrew Fanara
ENERGY STAR Product Development
U.S. Environmental Protection Agency

同封物:

ENERGY STAR EPS基準バージョン2.0 最終草案

最終草案において提案されているエネルギー消費効率要件の策定に用いられたデータ（モデル特定情報を隠したもの）

EPS基準バージョン2.0の最終草案概要を示す図表